

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<p>&lt;エントリーシート&gt;</p> <p>※事務局記入欄</p> <p>No.: C-1</p>	<p>部門</p> <p>3. 校内研修 部門</p>	<p>学校名・氏名</p> <p>守谷市立守谷中学校・黒井孝広</p>
<p>活動名 主タイトル(12文字以内) 副タイトル(16文字以内)</p> <p>※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える案件名を記入してください。</p> <p>参画意識の向上を目指して        ～教科の枠を超えた授業研究を通して～</p>		

**課題の設定:** ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか? 視点などを含めて記載してください。

新学習指導要領において、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを行うことが求められている。その中でも教科等横断的な視点に基づいた授業研究を進めていくことで、教科担任制である中学校において、教科の枠を超えた教職員同士の協働性やカリキュラム・マネジメントに対する参画意識を高めていくことをねらいとして、校内研修を企画・運営することを目指した。

**方針・計画:** ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

教職員の参画意識を「自律性」とそれを前提とした「協働性」の2つからなるものと捉え、それぞれを高めていくためのワークショップ型研修を企画・運営した。まずは「守谷中版視覚カリキュラム表」を活用して、担当教科と他教科・領域とのつながりを捉えることで、自分の授業と自校の取組がどのようにつながっているかを自覚した上で授業研究に取り組めるようにした。また、思考ツールを活用して、校内研究の研究主題を全体で共有したり、自分の授業と研究主題との関連性を見いだしたりすることで協働性を高めるようにした。

**活動内容:** ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

年度初めに校内研究の主題である「目指す生徒像(学びの手ごたえを実感する生徒)」について教職員で意見交流を行い、共有化を図った(写真1・資料1)。次に「守谷中版視覚カリキュラム表」を活用して、教科等横断的な視点に基づいて、学習内容や育てたい資質・能力における各教科・領域間のつながりを見出した(写真2・資料2)。見出したつながりを基に、研究部による「社会科と美術科」「国語科と美術科、学校行事」をそれぞれ関連させた提案授業を行った(写真3・4・5)。異なる教科担当者による授業研究の取組が実現するとともに、教科の枠を超えての相互授業参観を展開する契機をつくることにつながった。7月に実施した校内での公開授業の際には、各自の取組における、研究主題に迫るための手立ての有効性を検証し合うワークショップ型研修を行った(写真6・資料3)。8月には「守谷中版視覚カリキュラム表」を活用して、1学期の授業実践についての振り返りと、2・3学期の授業構想を練る研修を行った(写真7)。

**活動の成果:** ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

ワークショップ型研修を取り入れることで、互いの考えを知ることができてよかったという声を聞くことができた。意見交流の際には「数学では…」 「体育では…」 「技術では…」 といった担当教科による考え方の違いなどが出されていた。日々の授業でも「社会科では○○について学習しているそうだけど…」 と生徒に話す他教科の教職員の姿が見られた。担当教科以外の取組を知ることで、教職員の視野の広がりにつながっていることが窺えた。自分の担当教科で学習していることが他教科においても役に立つ、活用されていることを知ったことにより、日々の授業づくりに大きな影響を与えている様子が見られた。

**アピールポイント(アイデアや工夫):** ※3~5つ程度の箇条書きしてください

- 「守谷中版視覚カリキュラム表」を活用することで、教職員一人一人が教育課程(カリキュラム)全体を俯瞰的に見ることができ、授業づくりにおける視野の広がりにつながった。
- 目標の共有化を図り、教職員同士の意見交流の場として校内研修の時間を位置付けることで、校内研究の方向性や取組状況を共有し、協働性を高めることにつながった。
- 授業を通して、教職員一人一人の教育課程経営に対する参画意識が高まってきた。

<写真、図表添付欄>

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

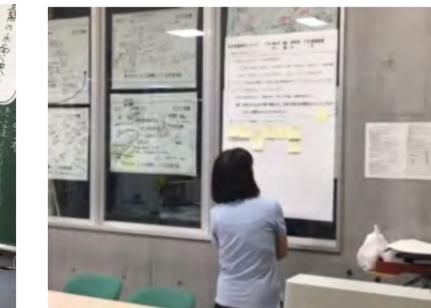


写真6



写真7



資料1



資料2



資料3

